

## ジオパーク推進員辞令交付

7月1日（金）、東通村は下北ジオパーク構想に携わる2名の職員（教育委員会：小山総括主査、経営企画課：成田主事）を「ジオパーク推進員」に任命しました。

下北ジオパーク構想推進協議会を構成するむつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村ではジオパークの普及推進にあたる職員（ジオパーク推進員）をそれぞれ置き、今年度における日本ジオパーク認定に向けて様々な活動を行います。

越善靖夫村長からジオパーク推進員の辞令交付を受けた2名の職員は「これまで以上にジオパークの普及推進に努め、地域を盛り上げていきたい」と今後の抱負を述べました。



## 清掃活動で尻労地区のジオを学ぶ

7月9日（土）、尻労地区において、ジオサイト清掃活動が行われました。

この清掃活動は、尻屋崎ジオサイトに含まれている尻労漁港周辺地域の清掃と、ジオパークの認知度向上を目的に、東通村と東通村観光協会の共催により行われ、今年は昨年の20名を大きく上回る約70名の参加がありました。

清掃後、東通村観光協会の氣仙修会長によるジオガイドも行われ、参加者は地球の表面を覆うプレートの運動で生まれた付加体等について、実際に触れて説明を受け、ジオパークを体感していました。

8月上旬には日本ジオパーク認定へ向けた現地審査が予定されており、今後も下北一体となってジオパークの啓発活動を行っていくとのことです。



尻労漁港周辺の清掃



昨年を上回る参加者

## 東通科でブルーベリー・イチゴを学び、食べる

7月13日（水）、東通小学校4年生の児童が総合学習である東通科の一環として、東通村の食を学ぶため、「あべらベリー苑」（上田屋 畑中智子さん）と、「村田農園」（上田屋 村田睦夫さん）を訪れました。

あべらベリー苑では、ブルーベリーの種類や大きさ、なぜ東通村でブルーベリーを作るようになったのかなどを勉強した後、色々な種類のブルーベリーを食べ比べながら摘み取り、カップいっぱい収穫しました。

村田農園では、なぜ東通村が夏秋イチゴの栽培に適しているのか、ビニールハウスの蒸し暑さを我慢しながら、秋から冬にかけて獲れるイチゴとの違いや、大きく育てるコツなどを学びました。最後には、村田さんから出荷前のイチゴがプレゼントされました。

この授業を通して、児童は東通村で作られたものの美味しさや、作るための苦労や工夫、そして生産している方々の思いを学ぶことができました。



ブルーベリーを収穫